

# 振り返りを生かし、調整しながら学習する児童の育成

## —自己調整学習をベースにした授業実践を通して—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 理数・自然科学系（理科）

鬼頭 一晃

本研究は理科指導へ自己調整学習を導入することで、児童が自律して学習活動を調整し、振り返りから学びの深まりを実感できることの実現を目指した。小学校高学年が対象の2年間にわたる継続的な実践では、自己調整学習における学習の三要素（動機づけ・学習方略・メタ認知）に則り、単元を貫く問いの提起、学習計画・振り返りカードでの記述、小課題・学習発表会の場の設定などの手だてを設け、学習の三段階の充実を図った。

分析では4つの実践結果に基づき、高学年児童での手だての有効性、領域毎の学習成果の差異、学習の積み上げ効果の3点から検証を行った。その結果、動機づけの手だては児童の意欲的態度やカード類での記述が向上した点で有効と判断した。異領域の実践間で教師が学習方略の手だての一部を調整したものの、小6児童の自己調整の姿は維持されることが捉えられた。また、メタ認知の手だての継続で、児童は学習計画の自己調整力を育んだ。